

TIC NEWS

vol. **102**
2012.1

(公財) とやま国際センター

〒930-0856 富山市牛島新町5-5

インテックビル4F (タワー111)

TEL (076) 444-2500

FAX (076) 444-2600

E-mail: tic@tic-toyama.or.jp

URL: <http://www.tic-toyama.or.jp>



～第16回とやま国際草の根交流賞表彰式～

去る10月25日、富山県庁3階特別室において、国際交流・協力活動を草の根レベルで実践している団体、個人を表彰する“とやま国際草の根交流賞”の表彰式が行われました。

第16回とやま国際草の根交流賞表彰式

国際交流・協力活動を草の根レベルで実践している団体、個人を表彰する“とやま国際草の根交流賞”。今回は平成23年度富山県国際交流部門功労表彰もあわせて10月25日に行われました。受賞者は以下の皆さまです。

ーとやま国際草の根交流賞ー

【個人】

島 賢司 さん

富山市民国際交流協会の国際教養委員会において、語学講座の運営に尽力するとともに、「国際交流フェスティバル」の各国紹介ブースの企画運営に携わるなど、国際理解を深める活動を積極的に行った。

高田 眞 さん

富山県日韓親善協会の役員として、長年にわたり日韓両国の相互理解と友好を深めるため、経済、文化、スポーツなどの交流事業を積極的に推進した。昨年には、富山県日韓親善協会創立35周年記念事業を成功に導いた。

中筋 國雄 さん

富山県海外移住家族会の役員として、長年にわたり南米移住者の留守家族相互の親睦・情報交換に努めてきた。また、元教員としての経験を生かし、南米からの留学生・技術研修員に対する支援や県内在住の日系人子弟の高校進学のための支援などにも取り組んだ。

【団体】

富山ライオンズクラブ

平成18年から「カンボジアヘランドセルを贈る事業」に取り組んでいる。これまでカンボジアの子供達に日本の子供達が使ったランドセル6926個を贈るとともに、現地での贈呈式で子供たちと交流を深めるなど両国の国際交流に貢献した。

藤井 武 さん

富山県芸術文化協会の役員として、ハンガリーの国際美術キャンプや国際友好美術展に参加するなど国際交流の促進と友好親善に寄与した。特に「富山国際アートキャンプ2009」では、プロデューサーとして陣頭指揮を行い成功に導いた。

山田 武代 さん

富山県日中友好協会の職員として、中国からの永住帰国者とその子弟のための生活相談や、中国人留学生・就学生たちへのカウンセリングや病気などの支援のための募金活動など、多くの課題に対して職責を越えて長年にわたり献身的に活動した。

日本国際生活体験協会富山県委員会

昭和40年の設立以来、海外渡航希望者には渡航手続きや英文書類作成の支援、海外からの研修希望者には受入家庭の確保や親善旅行のサポートなどを行っている。これまで海外派遣453人、外国人受入265人の実績を残し、国際交流や国際理解の推進に貢献した。

ー富山県国際交流部門功労表彰ー

アジア子どもの夢

多年にわたり、枯葉剤の影響により障害を持って生まれたベトナムの子供もたちの自立支援に努めるとともに、世界各地で発生した災害の被災者支援に尽力するなど、国際協力の推進に寄与した。

福野小学校父母と教師の会

多年にわたり、アメリカ合衆国オレゴン州リッチモンド小学校児童の積極的な受入れや交流を通じた相互理解と国際感覚の醸成に努めるなど、本県とオレゴン州との友好交流の推進に寄与した。

国際交流フェスティバル2011

日時：11月12日(土)～13日(日)

場所：富山駅前CiCビル内

このフェスティバルは県内の国際交流・協力団体の日頃の活動や異文化について幅広く紹介し、また日本人と在住外国人の交流の機会を提供することを目的としており、今年で15回目を迎えました。

ステージでは、津軽三味線、雅楽演奏、パラグアイのボトルダンス、各国の留学生等による演奏や舞踊等が行われました。恒例の外国人カラオケ大会には7カ国11人が参加し、フィリピンのメアリー・ジョイ・キャペセンシオさんが優勝しました。

留学生らが自国を紹介する各国紹介ブース(23カ国)、世界の楽器・おもちゃ体験、JICA北陸パネル展、世界の民族衣装を試着体験、ロシア語スピーチコンテスト、着物を試着する日本文化体験コーナーや非常食を試食する防災コーナーなど様々な催しを実施され多くの来場者で賑わいました。

フェスティバルの最後を飾ったのは、南米音楽グループの“ウエイノ”。アンデス民謡で会場が一体となり閉幕しました。



国際交流フォーラム

日時：11月5日(土)

場所：高岡市生涯学習センター 4階ホール

国際交流や国際協力を啓発することを目的に国際交流フォーラムを高岡市国際交流協会と共催で開催しました。笑福亭鶴笑さんを講師に、「笑いは世界の共通語～国境なき芸能団の活動～」というテーマでフォーラムを行い、約200名が会場に集まりました。

笑福亭鶴笑さんは、1990年ニューヨークでの公演を皮きりに、南アフリカでのスワヒリ語を交えた落語など31カ国80都市以上で公演、海外での大きな賞も多数受賞されています。

今回は、2010年にイラクの難民キャンプを訪問した国境なき芸能団のビデオを交えて海外での活動紹介と、人形をつかったパペット落語も披露していただきました。近所のゴミ拾いからでもいいから自分にできることから始めることが大切だというメッセージにより国際協力の原点を再認識していただきました。



多文化共生理解教室

日時：11月20日(日)

場所：上市町稗田公民館

とやま国際センターでは、地域の多文化共生を推進する一助として、地域に住む外国人住民の方が講師となる「多文化共生理解教室」を県内各地で開催しています。

今年度第2回目は、ブラジル・サンパウロ出身のジョセ・アパレシド・ゴンザレスさんを講師に迎え、「ブラジルの文化を理解する」というテーマで開催しました。上市町稗田地区などから11人の参加を頂きました。

日本での滞在が15年になるゴンザレスさんからは、ブラジルの文化やサンパウロの生活、そして外国人が日本に暮らす上で困難な点などを紹介していただきました。

アンケートでは、「生活上のコミュニケーションの問題点を少し理解できた」「具体的な例があり、分かりやすかった」など身近な外国人住民への理解につながる意見が多く聞かれました。



国際交流人材バンク通訳者セミナー

日時：12月11日(日)

場所：環日本海交流会館

講師：会議通訳者、サイマル・アカデミー講師 神崎 龍志 氏

とやま国際センターの国際交流人材バンク登録者を対象に通訳者セミナーを開催しました。

今回は「中国語通訳者のためのスキルアップ」と題し、通訳者の心得、通訳スキルの実践演習等を行いました。

講師の神崎先生からは、「通訳者は聞きとりやすい日本語、中国語というものに常に心を配らなければならない。また上級者であっても発音のチェックを怠らない事が大事。」「通訳は「言葉の匠」でなければならない。枝葉末節まで言葉にこだわる姿勢と勉強の積み重ねが大事。」というお話がありました。

通訳演習では、外来語（カタカナ語）の翻訳や、中国語の会話にもよく出てくる四字熟語の訳などに真剣に取り組み、あっという間の3時間の講義となりました。



外国人のための暮らしに役立つ日本語教室－YOMIKAKI広場－

外国籍住民が自立して社会に積極的に参画するためには識字の能力は大切です。日常会話に不自由なくとも学校からのお知らせや回覧板を読むのにはちょっと困っている……という方を対象に読み書きの練習をしています。当センターの日本語ボランティア養成講座修了者もサポーターとして参加していて、賑やかな楽しいクラスになっています。

月日	トピック	機能（読み・書き）
9/11	私の漢字勉強法 自己紹介	漢字の学習方法のアイデアをシェアする 自分の名前や住所を書く
10/2	カレンダー	カレンダーやお知らせ等の月日や曜日を読む
10/16	食べ物	食品表示を読む
11/6	いろいろな店	チラシを読む
11/20	ごみ	ごみカレンダーを読む
12/4	年賀状	年賀状を書く
1/15	お知らせ	町内や学校などからのお知らせを読む
2/5	銀行	ATMの表示を読む／フォームに記入する
2/19	交通	道路標識を読む
3/4	いろいろな場所 私の毎日	看板を読む／友達にメールを書く



外国人のための就活応援講座（射水、氷見、黒部会場）

敬語表現などを中心とした職場での日本語、働く人のルールと制度について学ぶことを目的に射水市、氷見市、黒部市で開催した外国人のための就活応援講座。今年度は各会場で3回にわけて行いました。

職場での上司や同僚との会話のロールプレイを中心に、依頼するときの敬語表現等を学びました。また、社会保険労務士の森眞弓氏を講師に迎え、労働契約で注意する点、労働者に関する保険制度や年金のことについて学びました。



平成23年度とやま国際セ

とやま国際センターでは外国籍住民の展開してきました。射水市、氷見市、本語教室もそれぞれの地域で定着し

その後センターでは“外国人のための暮らしに役立つ日本語教室－YOMIKAKI広場－”の形を模索してきました。平成10年度から平成23年度までの間に、成講座も、近年の在住外国人の増加をボランティアに提供できるよう努

日本語ボランティアのスキルアップ講座

【ボランティアリーダーのための勉強会】

日時：平成23年9月3日（土）

場所：環日本海交流会館

講師：吉田 聖子 氏

コーディネーター：中河 和子 氏



『外国人と対話しよう！にほんごボランティア手帖』の著者の1人である日本語ボランティア歴35年の吉田聖子氏を講師に迎え、ボランティアリーダーのための勉強会を行いました。県内の日本語教室6教室から11人が参加しました。

“ボランティアの木”と題したワークショップでは、参加者それぞれの自分の歴史を振り返り、自らの日本語ボランティア活動の歴史と重ね合わせることで、ボランティア活動を続けていく上での大事な姿勢について学びました。

参加者からは「どんな先駆者も問題にぶつかり、それを克服してきたことがわかった」などの感想がきかれ、これからの活動に前向きなエネルギーをもらった勉強会になりました。

【じっせん勉強会】

日時：平成23年12月3日（土）

場所：環日本海交流会館

講師：岩田 一成 氏

今回は「にほんご これだけ」の著者の一人である岩田一成氏（広島市立大学国際言語学専攻教授）を講師に迎え、おしゃべりを楽しみながら日本語の基本文型を学ぶ「対話型活動」を行いました。

日本語が上手に話せない学習者と根気よく教えるボランティアの役割について理解を深めました。本講座として、①適切なおしゃべりの時間の確保、②乗り越える、ということがあげられました。

地域の日本語教室で活動する約50名が参加しました。「地域言語習得につながると改めて感じた」、「教える気にならない学習者に対して、どのように教えるかを高めていけるかが課題」という感想が



YOMIKAKI広場に参加の皆さん

センターの日本語支援事業

市民の日本語支援のため、様々な事業を、黒部市、黒部市、南砺市で立ち上げた日、独自の発展をとげています。

「おしゃべりの就活応援講座」や「暮らしに役立つ」を開催するなど新たな日本語支援に始まった日本語ボランティア養成・定住化に伴い、より実践的な内容にしています。

の1
学部
みな

」についての勉強会を開催しました。

よく会話を広げていくという日本語ボランティア運用能力を高めるおしゃべりのポイントの長さ、②初対面の難しさの克服、③年齢差を減らしました。

参加しました。参加者からは「おしゃべりが教科書を順に追いかけていかないと勉強したボランティアがおしゃべりで日本語運用能力が伸びました。



その他の日本語支援事業

日本語教室アドバイザー派遣事業

地域日本語教室へ日本語教育専門アドバイザーを派遣し、教室の安定的運営とボランティアのスキルの向上を図ります。

日本語教師育成支援事業

県内在住で、外国籍住民の方への日本語学習支援のため日本語教師を目指して勉強される方に、受講料の一部を補助します。

日本語ボランティア研修参加費用の支援事業

県内在住で、地域の日本語教室で活動する日本語ボランティアの方々が、自己研鑽のために文化庁主催の研修会等に参加される場合、受講経費の一部を助成します。

災害時の「やさしい日本語」普及事業

災害時の外国人への情報提供に有効な「やさしい日本語」について広く知ってもらうことを目的に10月22日、総曲輪グランドプラザで行われた第23回富山県民ボランティア・NPO大会に参加しました。

とやま国際センターのブースでは、センターが立ち上げに関わった地域日本語教室での防災活動の取り組みや「やさしい日本語のすすめ」の紹介パネルを展示し、「使ってみよう やさしい日本語」という小冊子を配布しました。

当日は子供から大人まで約140人の皆さんが「やさしい日本語クイズ」に挑戦しました。「警戒してください」をやさしい日本語でいうと……？ 参加者の皆さんからは「やさしい日本語に言い換えるのは意外と難しい」という声がかれましたが、「わかりやすく話すのは大切なことだと思う」と、皆さん真剣にクイズに取り組んでいただきました。



活用しよう!! 国際理解教育教材

当センターでは、開発途上国の暮らしと私達の暮らしとのつながりなどを考える国際理解教育のための教材の貸し出しを行っています。教材の使い方やプログラムの組み立て方の相談にも応じますので、お気軽にお問い合わせください。あわせて世界各国の民族衣装、遊具、国旗などの貸し出し、ユニセフビデオライブラリーも設置しています。また、TIC国際理解出前講座で講師派遣も行っています。詳細につきましては当センターホームページをご覧ください。

<http://www.tic-toyama.or.jp/>



開発教育や国際理解教育のワークショップを体験してみたい、学校の授業や団体の活動等で参加型学習の手法を取り入れたい、という方はJICA北陸主催の開発教育教材体験フェスタに是非ご参加ください!

■開発教育教材体験フェスタ「持続可能な社会づくりの実践に向けて」

日時：2012年1月22日(日) 10:00～16:30

会場：金沢市近江町交流プラザ

主催：独立行政法人国際協力機構北陸支部（JICA北陸）

問合せ先：独立行政法人国際協力機構 北陸支部 開発教育支援事業担当：山口泰範

E-mail: Yamaguchi-Yasunori@jica.go.jp TEL: 076-233-5931 FAX: 076-233-5959

申込締切：2012年1月16日(月)必着



今回はジブチ共和国から届いた青年海外協力隊 下保美華さんからのお便りをご紹介します。

「世界で最も暑い。」と言われるこの国ジブチへ来て、はや1年と4ヶ月が過ぎました。ジブチはアフリカの角と呼ばれる紅海に位置し、エチオピア、エリトリア、ソマリアとの国境に面しています。

最近では、「アフリカの角の大干ばつ」と、日本でもニュースになっていたようで、友人からも心配のメールが届きました。ジブチのニュースでもソマリアの食糧危機が取り上げられていますが、もともとジブチでは気温が高すぎて日常的に干ばつがあるので、ほとんどの食糧を輸入に頼っています。そのため、私自身はこの干ばつの影響を感じることはあまりありません。

私が住むディキル州は見渡す限り、一面の土漠が広がります。標高が首都より高く非常に乾燥していて、冬の時期はセーターが必要なくらいです。町全体が静かでんびりした雰囲気になっています。地平線に沈んでいく夕陽、星空をまたぐ天の川、毎日のように贅沢な光景が味わえます。

私は配属先の保健センターで、低栄養児の母親に対するセミナーを企画したり、小学校での衛生教育、啓発ポスターの作成などを行っています。

ジブチ人は遊牧民であったルーツもあるので町の中心をはずれると、石や木、布でできた昔からの住居スタイルをもつ家族がほとんどです。地方では低栄養児が多く、病院でも下痢症の患者が多くみられます。まだ衛生概念や栄養に関する意識は低く、そういった母親や子ども達のために少しでも新しい知識や情報を伝えられたらいいと思います。



下保 美華さん

派遣国：ジブチ共和国

職種：村落開発普及員

派遣期間：平成22年9月～平成24年9月

配属先：ディキル中央保健センター

～平成23年度外国人住民エッセイコンテスト入選作品より～

【最優秀賞】

津田さん

ジョウ 晶 ショウ 晶 (中国出身) 富山大学留学生



昨春、桜色の富山に私は降り立った。

大学で学んだ英語を捨て、日中比較文学を学びたい一心で、何も考えず、何とかなるさと思って来日を決めた。飛行機に乗って、初めて独りで故郷を遠く離れたことに気付いた。

幸いに、富山の友人たちは優しくった。ただ、日本語の問題に悩まされた。その上、研究テーマは、日本についての歴史と文化の深い理解が必要だった。その半年後に、私は大学院に入れるなどとは思わなかった。しかし、友人津田さんの存在は、私の人生を大きく変えてくれた。

私と津田さんは同じ年だ。教室の中で、他の学部生と話している時、津田さんはやってきた。その時、私たちは儀礼的な挨拶を交わしただけだった。授業が始まって、私たちはともに中国語を翻訳する授業を選んだ。当時の私は、日本語がほんとうに下手で、授業についていくのは全く無理だった。困っている時、津田さんは静かに「宿題のチェックをやってあげたいわ」と言ってくれた。私は飛びあがるほど嬉しかった。ぐちゃぐちゃの文章を直すことは、簡単な事ではない。時間もかかるし、彼女のためにもならないはずだ。でも、津田さんは私のために真剣に一字一句を説明して正しくしてくれた。それも一年間ずっと続けてくれた。

私の疑問にいつもすぐ答えてくれ、先生のゼミで、私のためにメモを取ってくれた。私の最初の大学院の試験が不合格だった時、彼女は一言耳元で「もう一度最初から頑張ろう」と言い、アルバイトで疲れていても、私が復習するのを助けてくれた。彼女は眠い目をこすりながら、辛抱強く教えてくれた。

「純粋で、功利のない思いやり」－ 私にとって津田さんは魯迅の藤野先生のような気がする。私が富山で得た最大の宝だ。

私たちは今、互いに心を打ち明けることができる。もしこれが縁というものであれば、私はそれを信じる。今思う。定めの中で、私たちは富山に導かれ、彼女に出会ったのだと。私はいつの日か、この友情に応えたい。

こんな“国際交流”やっています！

～“在日中国人を含むアジア人のための日本文化の体験講座”

おりがみ“遊遊”の会(魚津市)～

～TICから助成した事業をご紹介します～

在日中国人を含むアジア人のための日本文化の体験講座が、平成23年11月5日、魚津商工会議所ビル5階研修室において開催されました。

日本の折り紙の起源やその変遷について講演があった後、中国出身の講師より中国折り紙や剪画の紹介がありました。おりがみワークショップでは参加者が様々な折り紙作品を作り、また太極拳、二胡の演奏も行われました。

地元在住の中国出身者がたくさん参加し、総勢80名が集いました。日本人も中国人も真剣に、そして和気あいあいとした時間を過ごすことができました。



ルウ ツァイ

滷菜－鶏手羽元と卵・厚揚げの煮込み

台湾の家庭料理で、日本でいう肉じゃがやカレーライスのようになじみ深い料理です。煮汁をご飯にかけても絶品。作り置きしておくとお弁当のおかずや、急なお客様にも喜ばれます。



～作り方～

1. 大きめのフライパンにサラダ油を熱し、手羽元を入れ軽く焼き色をつける。
2. 水、醤油、酒、砂糖を加え煮立たせる。
3. ねぎ、すりおろした生姜、三角厚揚げ、ゆで卵、八角を加え、中火で30分煮込んで出来上がり。

*一日寝かせるとよりおいしく食べることができます。



～材料～（4人分）

青唐辛子	4～5本
鶏手羽元	12本
ゆで卵	10個
三角厚揚げ	6個
ねぎ(青い部分)	3本
すりおろし生姜	大さじ1
八角	1個
水	2カップ
醤油	1カップ
酒	1/2カップ
砂糖	大さじ3

TICからのお知らせ

これからの行事予定

日本海学シンポジウム

2月11日(土) 13:30～16:40

北日本新聞ホール

「富山からのメッセージ」

ー持続可能社会への文化と文明ー

JET世界まつり2012

2月19日(日) 12:00～15:00

高岡市生涯学習センター(ウィング・ウィング高岡内)

ステージアトラクション、出身国紹介ブース、

キッズコーナー、諸国体験ツアー、国際カフェ

外国人住民に係る住民基本台帳制度移行について

2012年7月より外国人登録法は廃止になり、外国人住民にも、日本人と同じく「住民基本台帳法」が適用されます。

詳しくは総務省のホームページをご覧ください。

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/zairyu.html

Web版 “生活ガイド in 富山”

県内在住の外国籍住民の方に必要な情報（在留資格、労働、医療等）を掲載した“生活ガイド in 富山”がとやま国際センターのホームページに加われました。

英語、中国語、韓国語、ロシア語、ポルトガル語でもご覧になれます。

環日本海交流会館に洋書が多数加まりました!!

国際交流の場として気軽にご利用いただける環日本海交流会館。国際交流の目的で会議室、ミニキッチン等をお使いいただける他、日本語関係の書籍・教材、国際理解に関する図書もそろえています。

今回英語のミステリー小説、漫画等が多数加まりました。皆様のご利用をお待ちしています。



(公財)とやま国際センター賛助会員募集及び寄付のお願い

公益財団法人とやま国際センターは、民間レベルの国際交流、国際協力を推進するため、様々な事業に取り組んでいます。TICの事業にご支援いただける賛助会員の方を募集しています。

年会費（1口）個人会員 3,000円

団体会員 30,000円

また、財政基盤の充実を図るため、寄付についてもよろしくごお願い申し上げます。